

令和2年度 柏市健康福祉審議会第1回高齢者健康福祉専門分科会 会議録

議題1. 第7期柏市高齢者いきいきプラン21の進捗について(資料1関係)

本市の取組や課題等について、御意見を御記載ください。

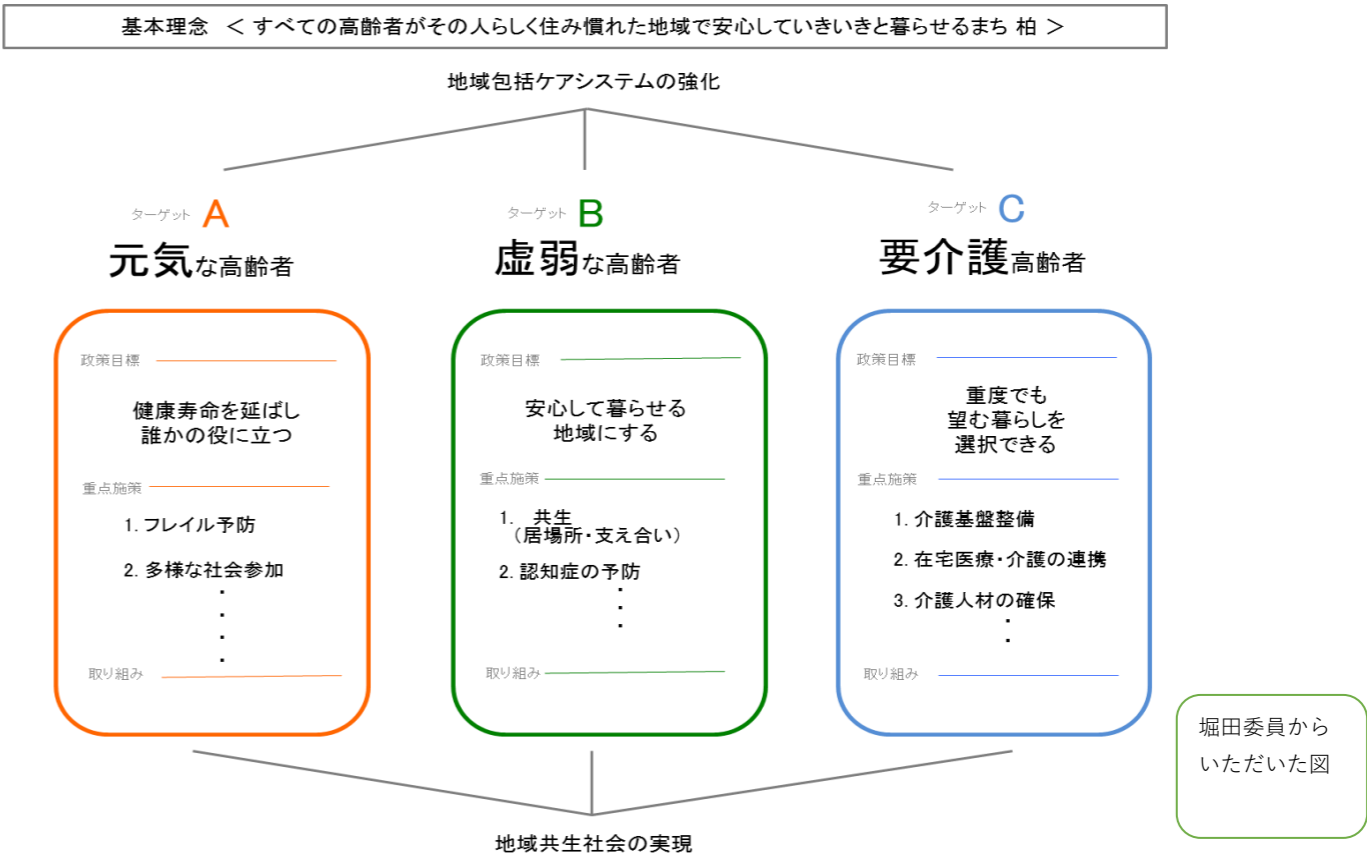
(今後を期待する事業や、詳細な取組状況を確認したい事業、高齢者福祉施策全体への御意見など)

| No. | 発言者 | 発言趣旨 | 市からの回答 |
|-----|------|--|---|
| 1 | 古川委員 | 在宅医療・在宅療養に関連して、実際に在宅を選んでいる方々の数はどの程度増えているのか。市内で地域的な偏りはないか。 | 在宅医療(訪問診療)を受けている市民の月平均数で見ると、平成24年(2012年)度は1303.2人→平成28年(2016年)度は1978.9人に増加しています。これを東・中・南・北4エリアに分けて比較すると、対人口比(10万人あたり)で東=307.2人、中央=390.3人、南=452.0人、北=316.7人(注・いずれも平成26年(2014年)度の人数)となっています。 ※直近の在宅医療サービスの利用状況は、今年度中に分析が完了する予定です。 |
| 2 | 古川委員 | グループホーム整備が進んでいないということだが、利用希望者はどの程度の人数なのか。 | 平成30年(2018年)4月時点では、市内全27事業所の待機者数は75人でした。最新の待機者数は、第8期計画の整備数算定に向けて、今後調査して参ります。 |
| 3 | 古川委員 | 認知症関連事業について、早期発見により医療機関等へつなげていると考えられる具体的な事例には、どのようなものがあるのか。 | 家族や近隣の方から地域包括支援センターに相談があり、必要に応じて認知症初期集中支援チームが介入し、医療に繋げています。 【事例】銀行口座の金銭の移動ができず、公共料金の支払いが滞った結果電気が止まったことを、御本人が無関係の公共施設職員に「嫌がらせか」と苦情を申し立てられました。そのことから地域住民の方が地域包括支援センターに相談くださり、チームの介入に繋がりました。御本人は医療や介護サービスの必要性を感じていませんでしたが、チーム員が継続して働きかけを行った結果、認知症外来への受診に繋がり、また訪問看護、訪問介護の導入に至りました。 |
| 4 | 堀田委員 | 資料1-1(主なポイント)では、初めに、7期プランの「指標の設定」について説明があると分かりやすい。続いて「指標まとめ」1/5~5/5が載り、その後に、評価の上がり下がりについてのコメントが来ると理解しやすい。 | プランの進捗状況については、今後も毎年行っていくものであるため、いただいた御意見を参考に分かりやすい形にするよう工夫します。 |
| 5 | 堀田委員 | 指標まとめの表の「頁」欄は、ここでは要らないのでは? | プランを参照したいときに探しやすいよう掲載したものです。 |
| 6 | 堀田委員 | 今後期待する事業:30番のいきいきセンタ、36番の地域医療連携センター、43番~の地域包括支援センター、94番~の庁内横断・ | 一部に計画よりやや取り組みが遅れている事業もあるため、取り組みを工夫してまいります。 |
| 7 | 堀田委員 | 指標自体の評価も必要なのでは?18番のボランティアセンター 他 | 御指摘の通りと考えております。第8期プラン策定に向け、指標そのものや数値目標が適切かについても、検討してまいります。 |
| 8 | 堀田委員 | 資料1-2 評価一覧の表 章の欄は番号だけでなく内容も載せてほしい。 ◎○△×の説明は、欄外に1回で良い | プランの進捗状況については、今後も毎年行っていくものであるため、いただいた御意見を参考に分かりやすい形にするよう工夫します。 |
| 9 | 植野委員 | 令和元年(2019年)度末には既に感染予防のために外出、参加等を控える傾向があった中で「計画よりやや取り組みが遅れている」となるのは仕方なく概ね計画通りと認識しております。評価の指標が人数、件数などであるため今年度は指標を上回ることはかなり困難であり次期計画策定の難しさもあるかと思えます。 | 新型コロナウイルス感染症の影響による社会参加の減少、介護保険サービスの利用控え等により、心身の状態が悪化する高齢者が増加することが懸念されます。保険料の算定にあたって、そうした影響を加味する必要があると考えています。 |
| 10 | 奥野委員 | ①「高齢者就労の拡充」の取り組みでは、求人開拓件数が増加となり窓口事業利用者満足度も高くなっています。就労実績内容を教えてください。 | 就労者数については、平成29年(2017年)度60名、平成30年(2018年)度41名、令和元年(2019年)度72名と推移しており、平成30年(2018年)度から大幅に増加しました。業種分野では「医療・福祉・介護」分野の割合が43%と最も多く、年代別では60代後半が全体の44%を占めています。 |
| 11 | 奥野委員 | ②厚労省成年後見制度利用促進室で発表(令和2年2月27日)した「成年後見制度利用促進施策に係る取組状況調査結果」によると、権利擁護センターの委託先として柏市社会福祉協議会が記載されています。しかし、千葉県の中核機関が決まった8市町の中に柏市は入っていません。柏市の中核機関整備の方向性と行程を教えてください。 | 中核機関整備の方向性については、昨年度に提出を受けた「柏市における成年後見制度利用促進基本計画の策定に関する検討報告書」に基づき、権利擁護センターの運営を実施している柏市社会福祉協議会への委託を検討しています。また、工程については、第8期柏市高齢者いきいきプラン21に計画を位置付けることとし、令和3年(2021年)5月から9月を目途に中核機関の設置に向け取り組んでいます。 |
| 12 | 吉野委員 | 介護人材の確保事業について、イベントの実施は良いが評価項目が少ない。介護の仕事に対する評判や課題分析などを把握できているのか。把握しないと、誰に何をどのように見せるかの戦略を立てられないのではないかと。具体的には、勤続年数の短さ、定着率の低さ、離職率の高さ、対価の低さなど、様々な課題があると考えます。その課題一つ一つに取り組むため、行政や事業者、学生、高齢者、労基署関係者、などの必要なメンバーを集めて、検討会を発足してはどうか。 | 昨年度お示した本市の介護保険サービス従事者調査では、介護職員の離職理由として「職場の人間関係の問題」が最も多く、次いで「事業所の理念・運営に不満」という結果でした。全国的な調査においても、介護職員の離職理由として同様の傾向がみられる中、経年での比較では離職率の低下と採用率の向上がみられ、その要因としては雇用管理改善の取り組みがあげられています。そのため、まずは、生産性を向上させることなどによる介護現場の環境改善を図ってまいりたいと考えますので、介護事業者の声を聞き、役割分担を図り、市として必要な施策について検討してまいります。 |

議題2. 第8期柏市高齢者いきいきプラン2-1の方向性について（資料2関係）

・お示した方向性全体への御意見等

| No. | 発言者 | 発言趣旨 | 市からの回答 |
|-----|------|--|--|
| 1 | 古川委員 | 6つのポイント全てが的確なものであると思います。 | 第8期プランは、6つのポイントを踏まえ、高齢者の状態像ごとにめりはりをつけて事業を進めるよう、策定を進めていきます。 |
| 2 | 植野委員 | 3つの状態像に分けるとい点が分かりやすいと思います | |
| 3 | 奥野委員 | 方向性全体について賛同いたします | |
| 4 | 堀田委員 | 資料2-2の図「8期プランの方向性」は、計画の全体像を図示したものととらえて宜しいか？ この図を本文や別紙1~5と照らし合わせて読み解くのはなかなか難しい。図の中では、キーワードや短い文を使うのが分かりやすい。内容については、本文の中で説明してほしい。 | <p>第2回分科会の際に第8期プランの総論を提示したいと考えております。その際に、分かりやすい見せ方について工夫してまいります。</p> |
| 5 | 堀田委員 | ターゲットを3つ（仮にA、B、C）に分けたことがすぐ分かるデザインに。 | |
| 6 | 堀田委員 | 本文の流れに沿って、図にも上から下への流れがあると見やすい。 | |
| 7 | 堀田委員 | 6期7期で用いられた「政策目標」「重点施策」「取り組み」の表現を踏襲し、番号や記号を振ると分かりやすい。 | |
| 8 | 堀田委員 | 以上を図にまとめると、具体的には、別に添付する図※のようなイメージ。 | |



議題2. 第8期柏市高齢者いきいきプラン2.1の方向性について（資料2関係）

・各目標の課題や方向性への御意見等

| No. | 発言者 | 発言趣旨 | 市からの回答 |
|-----|------|---|---|
| 1 | 古川委員 | フレイル予防ポイントについて、新型コロナウイルスに出鼻をくじかれてしまったが、大変期待している。現在までのカード発行枚数、また対象事業数を教えてほしい。 | 柏市役所やバレット柏などの公共施設での発行窓口の開設と、サロン等に出向いての説明を行い、7月9日現在で529枚のカードを発行しました。ポイントを付与する対象事業としては、ボランティアを受け入れている施設、事業所、サロンに加え、体育館や一部のスポーツジムなど50団体に登録いただいています。今後は、比較的若い方の参加を促せるよう市の事業以外の対象事業の拡大に努めます。 |
| 2 | 古川委員 | 健康づくりに関連して、現役世代へのアプローチの方法を具体的に教えてほしい。 | 具体的なアプローチについてはこれから検討することになりますが、現役世代が健康づくりの意識を高く持つことは、今後の高齢化社会における健康寿命の延伸に高い効果をあげるものと考えます。保険事業と介護予防の一体的実施を通じたデータの分析により、要介護に至るリスクを明確化することで、リスクが高い層へのエビデンスをもったアプローチを行うことなどを検討してまいります。 |
| 3 | 古川委員 | 「介護度が重度であっても望む暮らしを選択できる」について、介護現場の生産性の向上とは具体的にどのようなことを考えているのか。 | 介護現場革新会議 基本方針で示された「人手不足の時代に対応したマネジメントモデルの構築」、「ロボット・センサー、ICTの活用」、「介護業界のイメージ改善と人材確保・定着促進」を踏まえて、柏市にとって有効な生産性向上施策を検討します。 |
| 4 | 堀田委員 | 別紙2の目標、「健康寿命の延伸」に、「誰かの役に立つこと」を加えると充実した内容になる。「健康寿命を伸ばし誰かの役に立つ」という目標はいかが？それは、地域づくりやまちづくり、共生の担い手となることにつながっている。 | 現役世代が更に減少することが見込まれるなか、健康寿命を延伸し、「誰かの役に立ってもらう」ことは、住み慣れた地域で暮らし続けるために重要です。そうした視点を、支えあい活動等の促進として、計画に盛り込んでいきたいと考えています。支えあい活動など、誰かの役にたつことは、多様な社会活動の一つであるため、目標に掲げることについては、検討してまいります。 |
| 5 | 堀田委員 | 別紙3で、認知症の方の在宅率が指標になっているが、在宅が望ましいものと一概に言えるのかどうか、議論がある所ではないか。 | 御指摘の通り、在宅率の増加は、家族等介護者の負担の増加やそのことによる介護離職などの危険性をはらんでいると考えています。そのため、「本人の幸福度」や「就労を問題なく続けていける人の割合」などの指標により、在宅を望む人が、家族等介護者の負担を過大にすることなく在宅生活を継続できているかを評価していく考えです。 |
| 6 | 堀田委員 | 別紙4の目標（政策目標？）実現には、膨大な費用、人手が必要である。本人や家族が望む暮らしを選べるように、と膨大な基盤整備、受け皿確保を計画に掲げることは現実的なのか？ | 介護保険の持続可能性を考えると、今後増加する介護ニーズ等のすべてを既存のスキームで吸収することは困難だと考えます。そのため、健康寿命の延伸によるニーズの減少と、支えあい活動等のスキームの拡大などを促進する必要があります。それらを通して、高齢社会が更に進展しても、本人や家族が望む暮らしを選べるようなまちづくりに取り組んでいく必要があります。 |

議題2. 第8期柏市高齢者いきいきプラン21の方向性について（資料2関係）

・各目標の推進方法への御意見等

| No. | 発言者 | 発言趣旨 | 市からの回答 |
|-----|------|--|--|
| 1 | 堀田委員 | 各々の推進方法の図は要らないのでは？ P D C A サイクルによる、で済む。 | 第2回分科会の際に第8期プランの総論を提示したいと考えております。その際に、分かりやすい見せ方について工夫してまいります。 |
| 2 | 植野委員 | ②ケアマネの研修参加のアンケート結果より「時間・地理的な制約」「情報が届かない」等。協議会としてF A X 以外にカシワニネットやホームページで周知しておりネット環境に不慣れであるとも考えられます。今後、フレイル予防のターゲットを壮年期にすることやコロナ禍などeラーニングやネット配信等も必要となると思われます。 また、認知症の正しい理解を得ることや壮年期に伝える方法として小学生・中学生に理解してもらい生徒から親に伝えてもらう方法も有効と考えます。 | フレイル予防に関する情報をインターネット上の本市の動画チャンネルによる配信や、ホームページに掲載しているところです。 今後は、市民の様々なニーズに対応できるよう、ネット配信を活用した情報提供についても積極的な活用を検討していきます。 (小学生への認知症啓発について)年少時から認知症への理解を身につけることは非常に重要であると考えており、また保護者への波及効果も期待できることから、平成30年(2018年)度より小学校での認知症サポーター養成講座実施に力を入れています。平成30年(2018年)度は8校635名、令和元年(2019年)度は9校652名に実施しました。 |
| 3 | 奥野委員 | 施設より在宅で最期を迎えたいと思う高齢者が今後増えてくると思います。そのための医療、介護などの柏市の制度や社会資源の整備状況は他市と比較してどの程度具体的に進んでいるのでしょうか。 | 柏市は、平成22年(2010年)に東大、URと共に、長寿社会に向けたまちづくりの研究を行う協定を結び、柏市医師会をはじめとする医療・介護関係団体と一体となって在宅医療の推進に取り組んでいます。 柏市の在宅医療、介護の主だった社会資源の現状は以下のとおりです。今後も、増加する高齢者数と、それに伴う要介護者を見据えて、事業所の整備を行ってまいります。 ○在宅療養支援診療所(在宅医療の主な担い手となる診療所) 柏市=人口10万人あたり8.35か所(市内設置数36か所/令和2年(2020年)4月現在) 千葉県平均=人口10万人あたり6.11か所(平成31年(2019年)現在) ○訪問看護ステーション 柏市=事業所1か所あたりの常勤換算数5.2人(平成30年(2018年)現在) 全国平均=事業所1か所あたりの常勤換算数5.0人(平成29年(2017年)現在) (柏市の事業所数は平成30年(2018年)現在で28か所となっています。24時間365日体制が無理なく構築できるよう、柏市は事業所1か所あたりの従事者数の増加に力を入れています。) ○小規模多機能型居宅介護 柏市=人口10万人あたり2.4か所 近隣同規模市(松戸、船橋、市川)平均=人口10万人あたり1.6か所 ○定期巡回・随時対応型訪問介護看護 柏市=人口10万人あたり1.2か所 近隣同規模市(松戸、船橋、市川)平均=人口10万人あたり0.9か所 今後も、増加する高齢者数と、それに伴う要介護者を見据えて、事業所の整備を行ってまいります。 |
| 4 | 吉野委員 | 介護を受けている人の幸福度はが上れば介護職の仕事への満足度が上がる。よって、就労を問題なく続けている人の割合が増える。ということですね。この関連について具体的に説明して下さい。 | 介護を受けている人の幸福度や、介護職の仕事の満足度、就労を問題なく続けている人の割合などが上がっていくことが望ましいと考えています。それらが上がるように介護基盤の強化と整備に取り組むとともに、指標を定期的に評価していくことが重要であると考えます。 |
| 5 | 吉野委員 | 有料老人ホームと特養の整備について、具体的な割合はあるか。 | 有料老人ホームと特養の利用対象者は一部重なるため、特養の整備数を算定する際は、有料老人ホームの整備数や利用見込み数もある程度加味する必要があると考えています。具体的な特養の整備数については、各種介護サービスの需給状況を調査したうえで決定します。 |
| 6 | 吉野委員 | 資料2-2 計画的に基盤を整備することは評価できます。 整備するとともに、介護現場の生産性向上を通してとありますが、生産性の向上とはどのようなことか。 また、生産性向上を通じた人材確保・育成を図りますとありますが、どのような方法か。 | 介護現場革新会議 基本方針で示された「人手不足の時代に対応したマネジメントモデルの構築」、「ロボット・センサー、ICTの活用」、「介護業界のイメージ改善と人材確保・定着促進」を踏まえて、柏市にとって有効な生産性向上施策を検討します。 生産性の向上により、身体や環境の働きやすさが向上することは、人材の確保定着につながっていくと考えています。 |

3. その他（自由記載欄，地域フォーラム等）

| No. | 発言者 | 発言趣旨 | 市からの回答 |
|-----|------|---|--|
| 1 | 須田会長 | 「2040年に向けて」といった場合、現在、75歳以上高齢者である人たちに対して何ができるのだろうか？と考えました。第8期プランの内容については「フレイル」などの介護予防、これまでの取り組みの延長上にある施策が中心であろうと思います。さらなる身体機能が低下することや認知症を発症する、進行する高齢者はますます増え、医療依存度の高い高齢者も増えることが予想できます。そこで終末期（ターミナル）に焦点をあて、行政が支援できることはないか、ACPや意思決定支援、持ち家処分などについて柏市で研究会のようなものを立ち上げて、検討しても良いのではと思います。 | 終末期への行政のニーズとして、個人の権利にも関する多種多様な課題が想定されます。第8期プランに位置付けて対応を図っていくことは困難ですが、会長御指摘の通り、2040年に向けて起こりうること・高まるリスクに対し、今から備えていくことが必要だと考えます。 |
| 2 | 古川委員 | フレイル予防に関連して、自ら進んで活動に参加しない方々へのアプローチを真剣に考えてほしい。目に見える結果を期待する。 | 市主催の事業や、地域主催の活動だけでなく、趣味の会やスポーツ活動、また個人で取り組む様々な活動についても、フレイル予防に効果的であることを積極的に周知啓発していきます。また、このような様々な活動にアクセスしやすくするための情報収集と提供についても、より効果的に行えるよう検討します。フレイル予防ポイントの登録事業の拡大を図り、参加状況や内容の分析を行っていきます。 |
| 3 | 植野委員 | ①オンラインを利用する他、ネット等が苦手な方には豊中市社協ではないのですが往復はがきを出して広く意見を募るのはいかがでしょうか。 ②その他ですが、かしわフレイル予防ポイントでも行っていますが、市内の企業とコラボを高めることも施策を行っていく上で有益になると思っています。 | ①御意見ありがとうございます。行政と市民が双方向で活発な意見交換が出来る方策を検討します。 ②委員の御指摘のとおり、フレイル予防ポイントだけでなく様々な取り組みにおいても積極的な連携を図ってまいります。 |
| 4 | 奥野委員 | 柏市在住の中国人は約2,000人とのこと。地域活動に積極的に取り組んでいる中国の方と話す機会がありました。柏市は外国人にとっても住みよい町だと評価していましたが、近い将来高齢化が進む在留外国人にとって、言葉の問題など介護保険サービス利用に不安があるようです。介護保険サービスの担い手と同時に利用者としての外国人を考えていく時代になったようです。 | 在留資格が3か月以上の外国人は介護保険の適用対象となるため、委員御指摘の通り、介護サービスを利用される外国人のかたについても考えていく必要があります。 |
| 5 | 平野委員 | いづれにしても、全職種の連携が必要と考え、支える家族や多職種の横の繋がりについても考えるべきである。 | 引き続き“顔の見える関係”を多職種間で構築できるよう取り組み、支えられる人だけではなく支える御家族も含め、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちの実現につなげてまいります。 |